

所在地 大阪市旭区森小路2-10-35

電話番号 06-6955-1212

校長名 佐保 一紀

標準服の有無 有



学校の概要

本校は明治6年、東成郡第三区千林村他八か村組合公立千林小学校として創立された。その後、大阪市千林尋常小学校等の幾度かの改称を経て、昭和22年に現在の大阪市立古市小学校となり、今日に至っている。本校区は幹線道路である国道1号線に面し、OsakaMetro谷町線と京阪本線に挟まれ、域内3駅を擁し人々の往来が盛んな地域である。千林商店街等の賑やかな商店街と戦前から残る落ち着いた街並みの中で、素直で人懐っこい児童が育まれている。

学校ホームページ

<http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e681511>

大阪市立古市小学校



携帯サイト

主な学校行事

- 4月…家庭訪問
- 5月…学習参観、春の遠足
- 6月…海洋トライアル(6年)、古市防災DAY
- 7月…期末懇談会、林間学習(5年)
- 9月…修学旅行(6年)
- 10月…運動会
- 11月…郊外オリエンタリング
学習参観
- 12月…期末懇談会
- 2月…学習参観
- 3月…卒業お祝い集会



児童数、学級数 (令和8年5月1日現在)

学年	男子	女子	計	学級数
1	44	51	95	3
2	36	31	67	2
3	48	42	90	3
4	33	36	69	2
5	37	48	85	3
6	42	40	82	3
特別支援学級				6

学校公開・説明会 日程

- 学校公開／ 9月8日(火) 10:45～11:30
- 学校説明会／ 9月8日(火) 10:00～10:40

*参加にあたっては必ず12・13ページをご確認ください。

通学区域以外からの就学について

- 集団登校／有
- 通学のルール／保護者が集団登下校の場所まで送り迎える。(出発時刻に間に合わなかった場合は、児童の安全確保のため、必ず学校まで送ってきてください。)

全国学力・学習状況調査及び全国体力・運動能力、運動習慣等調査

令和7年度全国学力・学習状況調査 (平均正答率)

国語	算数	理科
67%	60%	64%

- 結果の概要／国語科の平均正答率は67%で、全国平均の66.8%に比べて0.2ポイント上回った。算数科の平均正答率は60%で、全国平均の58.0%に比べて2.0ポイント上回った。理科の平均正答率は64%で、全国平均の57.1%に比べて6.9ポイント上回った。
- 取組の成果／算数科「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域、また理科のすべての領域で全国・大阪市の平均を上回ることができた。専科や学級担任が協力し、個に応じて細やかに指導や支援を進めてきた成果と捉えている。
- 今後の取り組むべき課題／解答時間が足りなかったと感じている児童が多いことが、質問用紙から読み取れた。短時間で分析的な読みができるように、様々な文章や資料を読む学習場面の設定や、根拠を示しながら自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実を図りたい。

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (平均値)

	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	10mシャトル(秒)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ソフトボール投げ(m)	体力合計点
男子	14.46	19.56	32.93	39.93	44.54	9.45	150.49	18.85	51.50
女子	15.61	19.73	36.50	42.36	34.46	9.54	146.97	14.50	55.97

- 結果の概要／体力の合計点は、男子が51.50で、大阪市とほぼ同じで、全国より1.52点低かった。女子は、55.97で、大阪市より3.39点、全国より2.00点上回った。
- 取組の成果／令和6年度より体育科の研究を行い、運動が苦手な児童も楽しく運動の心地よさを感じられる授業作りを行ってきた。また、水曜日の業間休みを30分のたて割り班運動遊びの時間「ゆうゆうタイム」とし、自ら運動しようとする子どもを育成するような取組を行ってきた。
- 今後の取り組むべき課題／シャトルラン(持久力)と長座体前屈(柔軟性)が男女共に、全国・大阪市平均を下回っていた。小中連携中学校の体育教員とも連携し、改善していくことのできる手立てを行っていく必要がある。

*各調査の概要については、14ページをご覧ください。

令和8年度 大阪市立古市小学校 教育全体計画

学校教育目標

自ら考え主体的に活動するたくましい子どもを育てる

めざす子ども像

自ら考える子

つよい子

なかよくする子

ねばり強く考え続け、主体的に解決していく子ども

基本的な生活習慣を身につけ、進んで運動に親しむ子ども

互いのよさやちがいを認め合い、励まし合いながら共に生きていく子ども

校長メッセージ

令和6年度から「体育科の研究」を中心に据え、すべての児童が運動を好きになる授業づくりに努めています。どの教科においても、伝え合う活動を大切にしながら、どのように自分の生き方に学んだことを活用できるとよいのかを系統立てて考えてきました。学校行事に関しても、本校の特色である地域に根差した学校としてカリキュラムの構成を見直し、発達段階に関しても縦横断的に組み立てていきます。特に、校区に大きな商店街がある地域性を生かした取組をカリキュラムマネジメントの中心として考え、児童一人一人が地域の一員として生活をしていることの自覚と自信を持つことができるように活動していきたいと考えております。

育てたい資質・能力

～主体的・対話的で深い学びを目指して～

自ら考える子

・活用の力 情報を正しく読み取り要約することに加え、読み取ったものから考えを形成することで、身に付けた「知識・技能」が様々な課題の対応に生かされると実感できるようにすること。

つよい子

・立志の力 学ぶことの意味を自分の人生や社会の在り方に結び付け、ねばり強く取り組むこと。

なかよくする子

・対話の力 自分の考えを表現するとともに、言葉を大切にしながら多様な人との対話を通じて考えを広げたり深めたりすること。

教科

体育 運動が得意・不得意に関わらず、それぞれにやりたい運動を見つけることができ意欲的に取り組みたいようになるようにする。また、運動の系統性を意識し、場の設定を工夫しながら活動できるようにする。

国語

正しい日本語、語彙力を身に付けることが、児童の表現したい内容を自分自身で理解し、相手に伝えたいことに結び付く。そのことを様々な場面での言葉を大切にしながら話し合い活動の充実につなげることができるようにする。

総合・生活

地域社会に向けて、人・もの・ことと積極的に関わり、自分の住む町の良さに気づき、「古市小学校の児童」としての誇りをもち学んでいくことの楽しさや充実感を得ながら、感謝の気持ちを伝えられるようにする。

一部教科担任制 今年度も3～6年生において導入し、教科研究や評価の効率化を図り、教員の専門性を活かした学習と指導を行う。

子どもの実態(学力・生活指導等)・学校の喫緊の課題

- 令和7年度の校内調査「学校は楽しい」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合が全学年で57%、肯定的回答が88%であった。特に4～6年生において最も肯定的に答える児童の割合が46%となっており、誰かの役に立つ経験を日常化していききたい。
- 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は38%と目標に届かなかった。日々の取り組みを通して、話し合い活動が活発になったり、振り返りを書くことで自分の考えをまとめることに慣れてきたりと、児童により変化が着実に見られる。
- 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における正答率が市の平均の7割に満たない児童の割合は、国語17%→15%、算数13%→6%で、そのうち国語と算数のどちらも7割未満の児童は6%→3%となり、前年度から減少させることができた。
- 令和7年度の校内調査「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を66%にすることができた。肯定的を加えると88%になることや日々の外遊びの様子、昨年度の結果からも運動やスポーツを楽しむ児童が増えた。
- 令和7年度の校内調査「日々の学校活動の中で毎日、学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、肯定的に答える児童の割合は全学年合計で71%→76%となり、昨年度よりも活用実感をもつことができた。

安心・安全な教育の推進

- 令和8年度小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和8年度小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を82%以上にする。

未来を切り拓く学力・体力の向上

- 令和8年度小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 令和8年度小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント減少させる。
- 令和8年度小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。

学びを支える教育環境の充実

- 令和8年度小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。
- 令和8年度の教員の1ヶ月あたりの平均時間外勤務時間を月20時間以下とする。